

研修名 保育実践（運動あそび）

平成29年8月29日(火) 13:00～15:30

講演 「関係性を育む運動あそび」

講師 社会福祉法人 種の会 片山 喜章 氏



1 講演要旨

《運動プログラムと展開ポイント》

- ① 『全員が常時参加(待機なし)』 = 『短時間でくりかえし』
- ② ルールの段階的提供とリズムカルな展開スピードによって高まる愉悦感
あまり間を空けないようにする
- ③ したくない子、出来ない子、トラブル等をどのように受けとめるか
出来てもできなくても価値ある経験
しない子⇒見ているだけでよい（2.3歳）5歳は個別対応が必要
- ④ 導きのスキルと見守りの場面
この類の活動場面では「的確な導き」 = 「的確な見守り」という相補性の意識
- ⑤ 展開者（保育者）の柔軟な心持ちとリズムミックな展開スピード
明るさ、笑顔、声に張り、どんな結果もグッドであると評価できるのは？
⇒できた喜び、できなかった悔しさ、友だちと関わる楽しさを味わう
- ⑥ コーナー保育やプロジェクト型保育と対等に補完し合うという理念が必要
担任保育者の価値が曖昧。子どもの理解の内に展開力としてのスキルとマインドを。
ネタを知っても保育者の柔軟な対応力がなければネタは活かされない。

《実技》

- ① ストップゲーム
ピアノに合わせて歩き、とまる。雨→片足立ち、雷→おへそを隠しうつ伏せなど
色々な動きをつける。
- ② ジャンケン列車⇒通常のを改良し『きらきらジャンケン列車』
ジャンケンで負けた先頭の人だけゲットでき、後ろの人はキラキラしながら一人
ずつになる。エンドレスにすることが出来る。
常に先頭になれるチャンスと相手を見つけようとする関係性。
- ③ イス取りゲーム⇒ふれあい型にアレンジ
 1. 椅子を減らし、座れなかった人は誰かの膝の上に座る。
→自然と2人組になり、ふれあいを持つことができる。
 2. 2～3人で1つの椅子の重なり乗り。繰り返すほど変容する子どもの姿。
メンバーチェンジで広がる関係性＝同じエクササイズにおいて気持ちが変容

④ 運動会競技について

練習は保育的、本番はイベント的
トラックを走る練習

⇒椅子をトラックのように並べて2人1組で1人が走り座っている人にタッチ
することを繰り返す。

スタートラインに椅子を置き座ることで自分が次に走ることが自然にわかる
ようになる。

⑤ フープの特性をいかして

1. スペースとして活用 場所移動

2. 2人でゴーゴー列車

ジャンケンで負けたら、相手の2人にそれぞれつながる。(パターン化する)

⑥ フルーツバスケット⇒動く機会を増やすように

基本3人3種類バージョンで仲間探し+グループワーク

⑦ 仲間集め+形作り (組体操)

自分たちで相手を見つけてやっていく。保育者が決めてするよりもその時々で何
度もすることにより自分たちで考えてするようになる。

⑧ 『ジャンケン宝取り列車』=喜びも悲しみも分かち合っって心地よい

3~4人の列車を作り、宝(カプラなど持ちやすいもの)を2つつ持ち、ジャン
ケンで負けたら相手に1つ宝を渡し、先頭は後ろに回り替わる。宝がなくなっ
たらみんなで何かポーズをして1つもらい続ける。

2 感想

今回の研修に参加してみて、普段から楽しんでいる遊びも少しルールを変えることで、
みんなが常に遊びに参加でき、楽しむことが出来るのだと感じました。

同じことを続けることで子どもたちが自分たちで考え、動き、楽しむようになり、周
りの友達を感じ、子どもたちに無理なく自然に友達との関わりを持って、とてもいいな
と思いました。

運動会でのトラックを走るのが苦手な子に対して言葉で伝えるよりも椅子を使って
トラックにしてタッチして次と遊びながら走っていくことをすることで自然に身に
付くのがビックリしました。

今後保育していく中で、今回学んだことをいかしながら、みんなと一緒に楽しめるふ
れあい遊びを子どもたちと一緒に楽しんでいきたいと思います。

(記録 長岡京市立新田保育所 坂本 静香)

